

12月8日 中学生と語る会

各地区のまちづくり推進協議会の方たちと地域について話し合う「中学生と語る会」が行われました。

会に先立って行われたのは、非常食カレーづくり。地震などで電気やガスが使えなくなったとき、カセットコンロとポリ袋で作れるそうです。その体験と地域の方との交流を兼ねて、みんなでカレーライスを作りました。自己紹介はまだ行われていないので、互いを



全部で40名ほどが集まって話し合いました



地域の方と一緒に下ごしらえ

知るの首からかけた名札のみ。そんな中でも、一緒に野菜を切ったり具合を取り分けたりするうちに、少しずつ会話も増えていきます。下準備が終わることには、最初の緊張も和らいでいました。

鍋で煮ている間に、いよいよ「語る会」が始まりました。今年のテーマは「地域の大きな行事に、どうすれば大勢の中学生が参加したいと思うか」。20人が3つのグループに分か

れて話し合いました。瑞浪北中になって校区が広がり、各地区からボランティアの要請があります。多い時には数十名の生徒がボランティアに参加しますが、同時に行事そのものに参加する生徒も増やしていきたい、という思いを地域の方々はもっています。その思いに応えようと、中学生にとって魅力的な行事にするには何が必要か、どんな時にボランティアに参加するのかなど、それぞれが自分の意見を述べ合いました。「参加ポイント制にしたらどうか」「部活単位で呼び



自分の考えを真剣に語りました。

かけては」等の意見が出され、今後の地域行事のあり方に、一石を投じたようでした。

会終了後、出来上がったカレーを頂きました。中には水を入れ忘れとろみのないカレーができていたり、水を入れすぎて柔らかくなったご飯ができていたり。それでもみんなで一緒に作ったカレーは、思わず笑顔がこぼれる、味わい深いものでした。



最後に美味しくカレーを頂きました。